

平成19年7月12日

集中環境施設内における非放射性的の水漏れに関する調査結果について

平成19年7月6日午後1時20分頃、集中環境施設*地下2階のドラム缶運搬用通路において、水噴霧消火設備の吹き出し口より非放射性的の水が漏れていることを、協力企業作業員が発見しました。ただちに、連絡を受けた消防設備の点検作業員が吹き出し口につながる配管の弁を閉めたことにより、漏えいは停止しました。

漏れた量は約400リットルで、回収・清掃を実施しました。これによる外部への放射能の影響はありません。

([平成19年7月9日お知らせ済み](#))

調査の結果、当該消火設備の吹き出し口から放水する際に開く弁（開放弁）を動作させるための遠隔操作弁と手動弁のうち、手動弁に微量の漏えい（シートリーク）があることがわかりました。このため、手動弁からシートリークした水の圧力で開放弁が開き、当該消火設備の吹き出し口から水が漏えいしたものと推定いたしました。

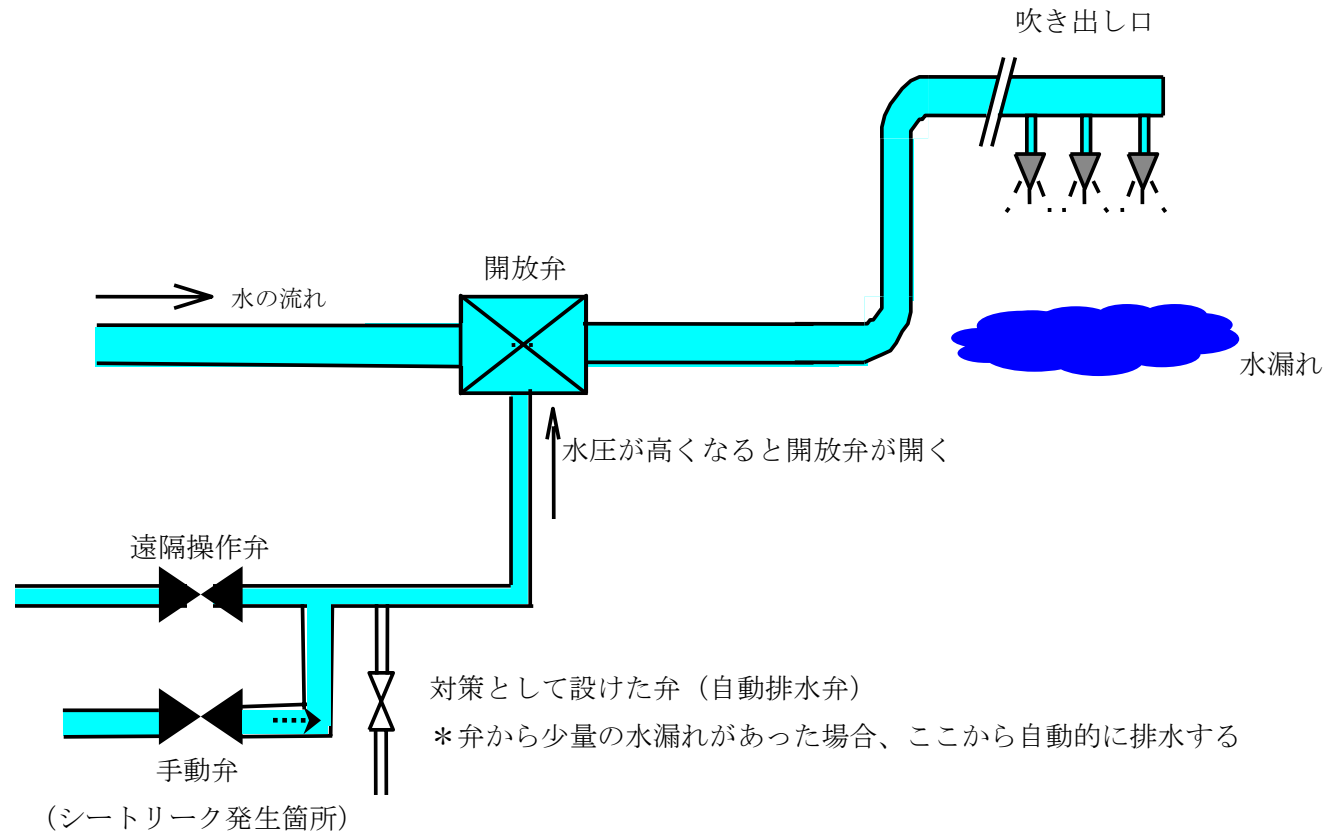
手動弁にシートリークが生じた原因は、長期間の使用にともなう弁体と弁座の接触具合の悪化や弁内部での微細な異物の噛み込みにより、弁内に水の通り道ができたものと考えております。

対策として、遠隔操作弁および手動弁を新品に交換いたします。さらに、交換後の弁より少量の水漏れがあった場合に、開放弁が動作しないよう、漏れた水を自動的に排水する弁を設けることとしました。

以 上

* 集中環境施設

発電所で発生する放射性廃棄物を処理するための施設。



水噴霧消火設備からの水漏れ概略図